

令和6年度 松江市立皆美が丘女子高等学校 卒業証書授与式 校長式辞

弥生三月、春が巡り、八十九名が巣立ちの時を迎えました。本日この佳き日、松江市長 上定昭仁様、PTA会長 昌子誠様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席のもと、令和六年度卒業証書授与式を挙げてまいりますことは、卒業生はもとより、私たち教職員及び在校生にとって大きな喜びであります。高所からではありますが、心からお礼申し上げます。

保護者の皆様、誕生の日から早十八年、皆様の腕の中から巣立つ日を迎えたお子様の姿に、感慨一人のことと存じます。お子様は立派に成長し、逞しい大人へと進化しております。これまでの本校教育へのご理解、協力とご支援に深く感謝するとともに、お子様の成長と卒業を心よりお祝い申し上げます。

ただいま卒業証書を授与した、普通科七十一名、国際コミュニケーション科十八名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。「卒業」とは、「業をおえる」ことですが、教科学習に限らず学び得た全てが業であり、「まつえ学」などの探究的な学び、面談や調査・探索等を通して轍を残してきたキャリア教育、学校行事や部活動、生徒会等の課外活動を含め、3年間に経験・会得したその全てが業なのです。人によって濃淡や習得度に違いはあっても、業を全うし終えたという意味では皆同じです。卒業は、「与えられた」のではなく、自ら「手に入れた」、進路実現を可能にする権利であり、資格です。皆さんは、この歴史と伝統ある皆美が丘女子高等学校での業を立派に終え、晴れて次のステージに向かう有資格者であり、未来へ雄飛する「巣立ちびと」です。皆さんの卒業を、教職員一同、心より祝福します。

さて、皆さんが成人となって向かう次のステージは、誰にとっても未知の世界です。保護者の方々をはじめとする大人が辿ってきた途とは根本的に異なる、世にいう常識がすぐに変わってしまうような変化の激しい世界に身を置くことになります。目を背けたくなくなるような許しがたい戦争や紛争、突発的な事件や事故、大規模な天災や災害もやむことなく起こり続けています。皆さん自身に降りかかり、何よりも大切にしたい「いのち」が脅かされることがあるかもしれません。AI(人工知能)が凌駕し、人間の尊厳が脅かされることも増えるでしょう。温かく守られた高校時代など比べものにならないほどの苦難を味わったり、逆に新たな価値や仕組みによる利便性や快楽を堪能できたりするかもしれません。そんな、誰にも予見できない、新たな世界に向かっていく皆さんにエールを込めて、高校生活を例示しながらここで一つの提案をさせていただきます。

それは、「加減乗除の観点で人生を捉えよう」ということです。幼い頃から慣れ親しみ使ってきた、あの算数の基本です。

＋(足す)は、加えること。幼児期から足し続けてきた知識や技能、わからなかった、できなかったことがわかりできるようになったこれまでに振り返り、授業や読書、探究や練習を通して加えてきたことを思い起こしてください。たくさんの知識や経験がプラスされて血肉となり、皆さんの今を確実に形作っているはずです。これからも学び続け、成長の足し算を継続してください。

－(引く)は、省くこと。皆さんも、集団生活や協働作業の中で、単に足すばかりでなく、時には整理し省いたり引いたりしてきたはず。社会で必要とされる「(他者との間で)折り合いを付ける力」も、総合的見地からあえて一歩下がる、一種の引き算に近いと思います。「間引き」や「駆け引き」という言葉もあるとおり、引くからこそ生み出される価値についてもたくさん経験したはず。目的達成のために、或いは人間関係の円滑化のために、勇気を持って引く姿勢も忘れないでください。

×(かける)は、時に莫大な効果を生み出します。倍増、三倍増などのように、元あるものを飛躍的に向上、拡大させます。教科学習と探究学習、学習と部活動、学校と家庭等、様々なことを掛け合わせて成長してきた皆さんならわかると思います。多様な意見のぶつかり合いや進路実現の過程での仲間との切磋琢磨など、他者や複数の領域を掛け合わせ、相乗効果で向上させたあの経験を、これから進む社会でも活かしてください。ただし、注意したいのは、ゼロやマイナスをかけないこと。かけ算の鉄則ですが、「やる気がない」などのゼロをかければすべてがゼロになり、ネガティブな思いや事柄などのマイナスをかければマイナスが拡大します。ぜひともプラス、ポジティブ思考で、効果的な掛け算を展開してください。

÷(割る)は、分けること。分担や分配、分け持ち、分け与えるに通じます。共同生活の中で、分け合った経験は多いと思います。喜びも悲しみも楽しみも苦しみも、仲間と共に分け合ってきたからこそ迎えた今日です。特に苦しいことは一人で抱え込まずに、時には腹を割って話し合いながら調整し、いかなる荒波をも乗り越えてください。「割る」はマイナスではありません。次なるプラスを誘発する意図的仕掛けです。

コロナ禍を経て、新たな「常識」が当たり前となった高校時代。マスク着用、消毒・換気が意図せずとも自然と行われ、リモートやオンラインが選択肢として加わり、対面との併用や選択が常態化していった3年間。また、皆さんは学習指導要領改訂に直面し、求められる学びの質や手法も大きく様変わりした世代でした。対面行事等の機会が奪われたり、引かれたりもした3年間。他者との交流による掛け合わせや腹を割っての話し合いも制約を受けたはずなのに、学園祭や県総体、文化活動等で、果敢に挑戦し、本校の歴史に新たなページを加えてくれた皆さんを私達は忘れません。マイナス要素がいかにかわっても、プラス要素がいくら引かれても、挫け諦めることなく、苦労は仲間と分け合い、喜びは掛け合わせて、3年間を乗り越えてきた皆さんなら大丈夫、次なる時代の担い手としてきっと各所で活躍してくれるでしょう。時代が積み重なりいつか振り返った時、きっと思い起こされる歴史的な卒期となるにちがひありません。各種の制約にも打ち克ち、伝統をしっかりとつなげてくれた皆さんに心から感謝し、讃えたいと思います。「加減乗除」の観点をもって成長を遂げてきた皆さん、見事な卒業です。ありがとう、そしておめでとうございました。

さあ、新たなステージへの旅立ちです。これからもバランスよく、それぞれの置かれた場所で自分らしい花を咲かせてほしいと願っています。先程述べた「加減乗除の観点」に加えて、どんな場所でも、機会でも、おそらく痛感するのは、この一年間伝え続けたP(パフォーマンス)・H(ホスピタリティ)・C(コミュニケーション)の大切さだと思います。これから新しく他者や社会と関われば関わるほど、パフォーマンスの在りようが問われ求められることになり、それに先だって相手への思いやり、ホスピタリティの真価が問われ、日常的なコミュニケーションを重視する思いが募るはずで、ここ皆美が丘の地で向上させた、それぞれのP・H・Cの能力や姿勢をさらに高めて、他者や社会に配慮したパフォーマンスの体現者になってくれることを期待しています。

結びに、四十年間の教員生活を送る中で、餞(はなむけ)として常に贈り続けている自作の歌を、卒業する皆さんに贈ります。

(歌) 友があり 師があり そして我がある 活かし活かされ 人は生きゆく

出会った友人、先生、保護者をはじめ、関わっていただいた全ての方々への感謝を忘れず、必ずや「活かす」人になってください。以上、卒業する八十九名のたいなる未来に幸あれと祈り、式辞といたします。

令和七年三月一日 松江市立皆美が丘女子高等学校 校長 多々納 雄二